

予報期間 7月25日から7月31日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 台風第12号については最新の台風予報を参照。
- 27日から28日は、低気圧が日本の東を東進し、高気圧が東シナ海に停滞する。
- 29日から31日は、低気圧が沿海州付近からオホーツク海に進み、高気圧が東シナ海を南下する。

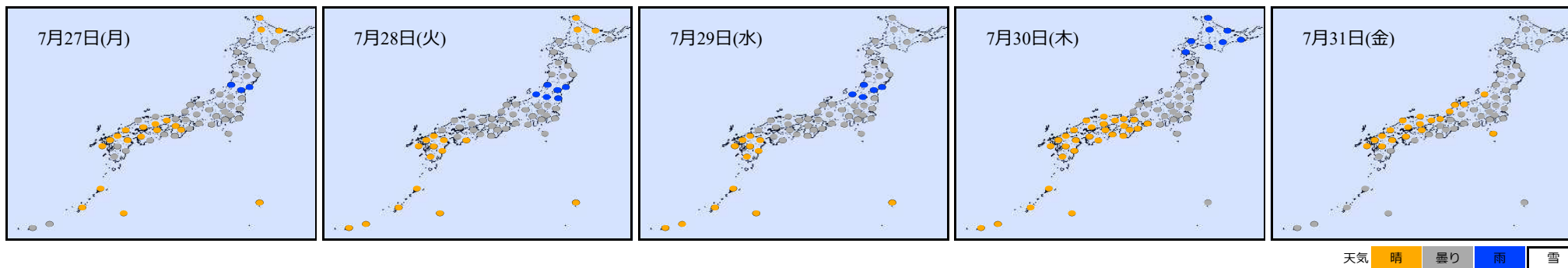
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 東日本、西日本、沖縄・奄美では、気温が平年よりかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

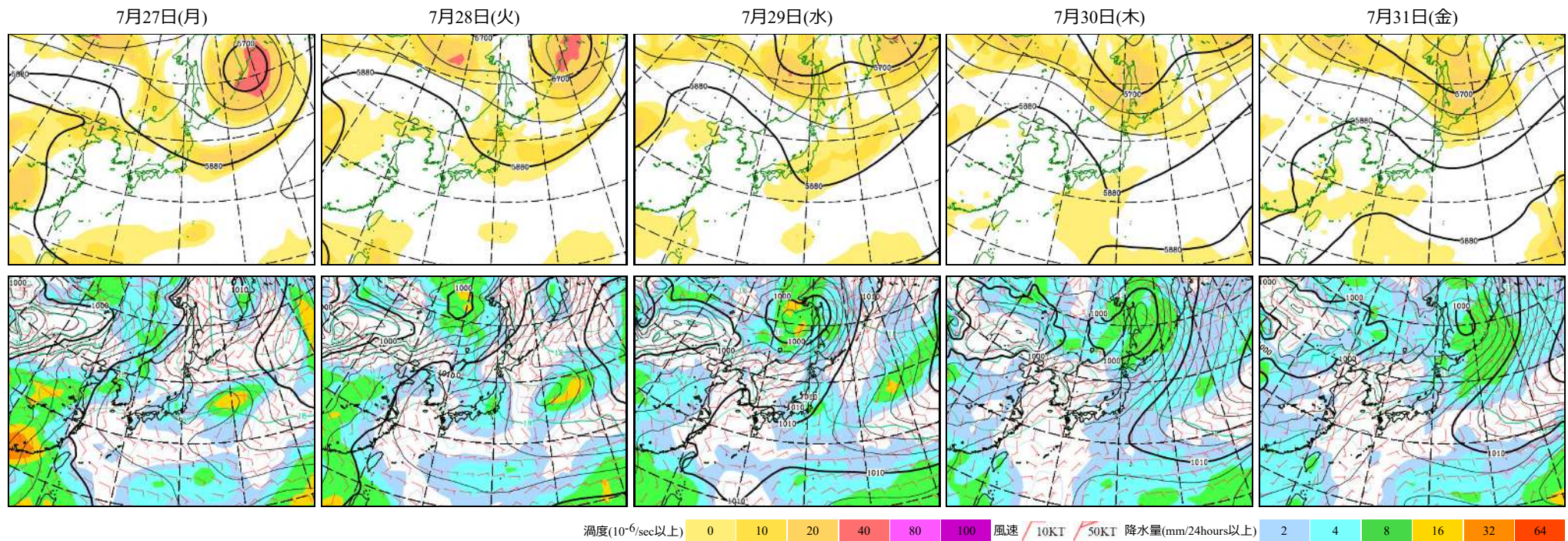
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

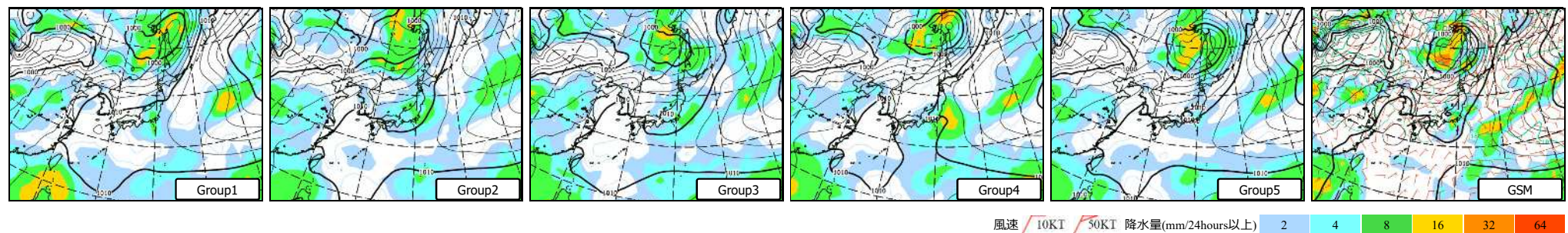


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多いが、27日と28日は晴れる所がある。
- 東日本は、雲が広がりやすく、雨の降る所があるが、31日は晴れる所がある。
- 西日本と沖縄・奄美は、晴れや曇りの日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月29日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、28日から29日にかけて、北日本付近のトラフが浅くなり東に寄った。地上では、27日から28日にかけて、日本の東の低気圧の東進が早くなり、29日から30日にかけて、東日本付近の気圧の谷が浅くなった。
- 27日から28日にかけて、日本の東を低気圧が東進する予想は各モデルで一致しているが、29日以降に日本付近を東進する低気圧の位置はモデル間の差がある。
- 降水確率ガイダンスの値は、27日は北日本で小さくなり、西日本太平洋側で大きくなった。28日は北日本で小さくなった。
- スプレッドは期間末には大きく、特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報はおおむね最新のENSを基に考える。